

# 京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会

本紙は、共同募金の  
配分金によってつくられています。



2012  
**4**  
No.519



- 主な記事**
- 1面…もえくさ
  - 2・3面…子育て支援制度の取り組み  
～社会福祉法人利生会(亀岡市)～
  - 4・5面…NPO法人活動紹介 こどものひろば
  - 6面…平成24年度京都府社会福祉協議会事業計画
  - 7面…地域コミュニティカフェ 喫茶「りあん」オープン
  - 8面…夢中!・熱中!ふくしびと



寛ぎの家 修家の皆さん

## もえくさ

▼「春らんまん」明るく光り輝く日差しの中へ、冬に閉じこもりがちだった母を車いすに乗せて買い物に出かける。▼年老いた私の父母が住む「ふるさと」は、瀬戸内海で坂の多いまちである。海と山が接近し、かつては瀬戸内海の臨海工業都市で鉄鋼業と造船業が盛んなまちであった。高台から港を臨むと夜中まで赤々と工場の煙突に火と煙が立ちのぼっていた。▼そのまちも今や大きく変貌し、子どもは少なくなり、自治体の財政難により母校のあった土地は民間企業に売却され、思い出の校舎は影も形もなくなった。特に過疎地というわけではないが当たり前のように高齢化がすすみ、高齢者世帯が増えている。近くにあって八百屋も小さなスーパーもなく、高齢者が向いて語りながら買物をする姿が地域から消えた。そこに住む人々の「生活(三)」そのものがどんどん消失していく…そして、かつてそこで暮らしていた人々の営みや笑顔・姿は継承されずに、思い出の中にしかなくなっていく。一抹の寂しさを感じる私の「ふるさと」の風景である。▼「うさぎ追いかの山:」被災地の復興を祈念し、国内外の人々が日本の唱歌「ふるさと」を合唱する。東日本大震災や原発事故で豊かな自然と、思い出や誇りある「ふるさと」を奪われた人々の深い悲しみと耐えがたい本当の痛み(悼み)は計り知れない。▼本会はふるさととつなぐ取組みとしては東北被災地の仮設住宅の皆さんに手紙を添えて「京のおせち」を届ける支援等の「京の企業・東北応援プロジェクト」や、震災避難者がふるさと情報や就職活動の情報収集をするためのパソコンを寄贈する取組みを企業の協力のもと取組んできた。▼「ふるさと」を離れ避難生活を送っている人々の願いが一刻も早く叶えられるよう、私たちも身近なところから支援を続けていきたい。▼そして、日本ふるさとであるこの京都を、だれもが安心して住み続けられるまちとするために、本年度はこれまでの取組みを継続・発展させながら市町村社協をはじめ関係機関・企業と連携・協働して新規事業「安心・安全 ぐらしのK-IZUNAプロジェクト」に取り組んでまいりたい。

社会福祉法人 利生会(亀岡市)

「よいこらんど」

# 介護・福祉職場で働く 優秀な人材の定着に効果抜群！

福祉現場の人材不足は、依然として厳しい状況が続く重要な課題となっています。「福祉人材の確保・定着・育成」は、福祉サービス水準を決定する重要な要素であることから、本会の事業計画の柱のひとつに掲げ取り組んでいます。今号はその課題の中でも、特に定着のために事業所が実施している子育て支援制度について紹介します。

創設時の段階から計画的に  
子育て支援を拡充

に取り組み、安定した雇用につなげて  
いる企業や団体があります。

仕事と家庭生活の両立をめざす人々  
が増えるなか、子育て支援制度の整備

亀岡市の利生会が運営する「特別養護  
老人ホーム亀岡園」、「特別養護老人ホ  
ム第二亀岡園」、「第二亀岡ケアハウス」、  
「柿花診療所」など



の従業員を対象にし  
た「よいこらんど」  
もそのひとつ。利生  
会は従業員の3分の  
2が女性職員です。  
そのうち、未就学児  
童がいる職員の数が  
多く、創設時の段階  
から子育て経験のあ  
る職員の声を反映さ

せながら、「誰もが働きやすい職場づ  
くり」子育て支援制度の整備」に着手  
してきました。  
その結果、365日24時間体制での  
勤務という労働環境ながら離職率はき  
わめて低く抑えられています。また京  
都府の「京の子育て応援企業」に認証  
されたあとは、施設のホームページに  
掲載する認証マークを見たいうえで、面



接の問い合わせをしてくる人が増えて  
おり、看護師や介護福祉士といった専  
門職の資格を持った優秀な人材の確保・  
定着に、抜群の効果を発揮しています。

それぞれの事情を考慮した  
柔軟な支援制度

子育て中のほとんどの職員が活用し



ているのが、「子育てに配慮した勤務シフト」です。これは、保育所や学校の行事にも参加できるよう、家庭状況に対応した勤務シフトを各セクション

で作成するものです。あらかじめ前月に希望する休日を聞き取りますが、子の発熱や天候による運動会の中止といった、急な事情による当日の勤務変更にも応じることが可能なため、「安心して日々の仕事に臨むことができる」と歓迎されています。

そのほか、シングルペアレントにも配慮し、18歳未満の子どもがいる職員には扶養手当を増額し、経済的にサポートしています。また、男性職員を対象とする「配偶者出産特別休暇制度」も取得・活用されています。

### 職員同士の 思いやりが不可欠

こうした制度が柔軟かつスムーズに

運用できるのは、職場における協力体制が築かれているからこそ。担当者は、「半日休みを取ったけれど、用事が終わったので予定より早く出勤してきた、ということもよくあります。休みを取ることが『当たり前』にならない人間関係を作るのが何より大事で、それによって仲間は次も助けてあげようと思うし、助けてもらった人は恩返ししたいと思うようになるわけです。感謝の気持ちは引き継がれるものだから、『いい加減にしない』ことを大切にしていきたいですね」と語ります。

利生会では、今後も新たな要望が出れば、前向きに検討していくとのこと。子育て支援の拡充に向けたさらなる取り組みに、注目が集まります。



また平成22年10月には、亀岡園内敷地に託児所をオープンしました。現在は10人の介護職などの職員が利用しています。素足で歩ける木造の清潔な部屋、築山や遊具を備えた園庭など十分な設備が整い、専任の保育士が常駐しています。

併設という立地を活かして、亀岡園の催しや季節行事などに子どもたちが参加することもあるとか。2歳の子を預ける職員は、「催しなどで大人にきちんと挨拶している様子を見て成長を実感し、こちらも頑張ろうという気持ちになる。仕事中に窓から散歩の様子が見えることもあって、楽しそうに過ごしているのがわかるので安心です」と目を細めます。



子育て支援制度という仕組みは重要ですが、職員同士の理解や休みをとる職員の意識があることで、仕組みを上手く活用し日々柔軟に対応されていることがわかります。また働く職員のニーズに合わせた仕組みは、「安心して仕事に臨む」環境づくりにつながり人材の確保や定着につながるのではないのでしょうか。

本会でも、今後とも「福祉人材の確保・定着・育成」への取り組み支援を続けていきます。

# 地域とともに人間を応援する支援を

たくさんのNPO法人、様々な活動があります。今号は情勢や地域のニーズにより変化し、活動そのものが発展していったNPO法人「山科醍醐こどものひろば」の取り組みを紹介します。

## ☆はじめ

NPO法人山科醍醐こどものひろばは、1980年に発足した「山科醍醐親子の劇場」が前身です。観劇や小中学生対象のキャンプなど年齢別の文化活動を行い、親子の交流を深めることを目的として活動する団体でした。経済情勢が変化し、

各家庭に文化的な活動を行う時間的・経済的な余裕がなくなると会員が減りました。その後1995年の阪神大震災後、会員だけの活動だけでなく希望する子どもたちにも活動に参加してもらいたいという機運が盛り上がり、2000年3月からNPO法人として

活動を始めました。

## こどものひろばは こんなところ

こどものひろばには現在2つの活動拠点があります。1つは乳幼児と親子で過ごせるこどものひろば「げんきスポット（つどいのひろば）」事務所です。具体的なプログラムがあるわけではなく、座ってくつろいだりおもちゃで遊べるスペースがあり、屋根のある公園をイメージされています。1日に10組〜20組程度の利用があり、職員が常駐しているので発達や食事のことなど日常のことも気軽に相談できます。

もう1つは、大人も子どもも訪れるフリースペースで、地域活動の場所であるこども生活支援センターです。子どもの生活支援や色々な技能を持った市民が材料費程度の参加費でアロマやお花、英会話などの講座を開催しています。またボランティアの拠点であり、

ボランティア自身が活動の企画・準備を行っています。そして今春、醍醐に新たな拠点が設けられます。

## 学習支援

### 〜なじめな子ども居場所づくり〜

こどものひろばの活動はキャンプや創作劇など多くの活動がありますが、その中でも現在重点を置いて取り組んでいるのが生活支援と学習支援です。

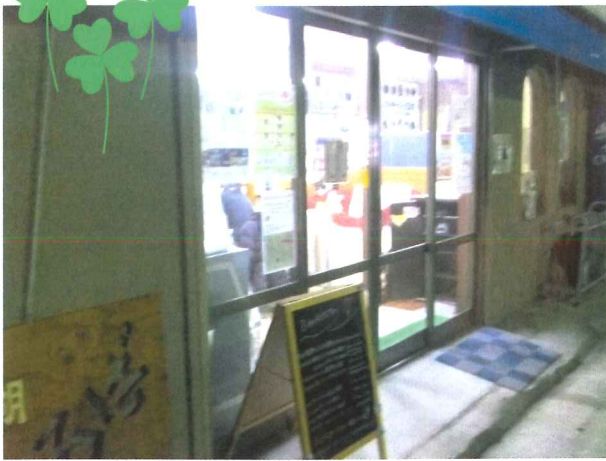
小中学校でクラスになじめない子、なじみにくい子は少なからずいるものですが、その中には不登校や発達障害など様々な課題を抱えており、学習に遅れがちなお子もいます。遅れるからさらになじめない。1日の生活のほとんどの時間を学校で過ごすため、な



子ども生活支援センターの様子



事務局長 村井 琢哉さん



学習支援は広がりを見せています。現在では職員はこどもの様子の報告を受け、派遣のコーディネートをすることで対応できるくらい、学生ボランティアは力をつけてきているそうです。ボランティアの中から小学校の支援員になった学生がいる学校もあり、そこでは受け入れは学校に任せるようになりました。こんな風にこどものひろばが全て行うのではなく、必要なところにノウハウを伝え、たくさんの拠点での

### つながる支援、 広がる活動

ていようです。

じめないというのは大きなストレスになりがちです。そこで、クラスに「居場所」という意味もこめて学習支援を始めました。その中のひとつである放課後学習支援は、5人位の子どもに対し5人の学生ボランティアを週に1回程度学校へ派遣し、放課後一緒に勉強をします。また小学校の夏祭りのお手伝いや月に1回お泊り会を行ってきました。現在2つの小学校と連携しており、「もっとやって欲しい」と要望があり、他の学校からも依頼がき

活動が展開されています。

### 一緒にやりたい、 地域の質を上げたい

地区社協は高齢者支援を中心としているので、良い住み分けや連携ができています。社協から資金と場所はあってもボランティアが足りないという相談を受けることもあり、そんな場合は内容を一緒に考えボランティアを派遣したりもするそうです。NPO法人も社協も活動内容に線を引かず、共に目の前の課題



子どもが絵を描き企業と一緒に作ったかるた

地域には様々な世代がそれぞれの課題を抱えながら生活しています。親が仕事で帰りが遅くひとりりで過ごす子どもがいる家庭『実は病気がちの高齢者を抱えている家族』など、気

に対してアクションを起こしていく。「課題を社会化させ、地域を良くしていく仲間です。民生委員と一緒に学生ボランティアが活動できないかなど夢みたいな話もするんですよ」と村井琢哉さんは笑って話してくださいました。

### 人生を応援する 支援とは

「今の世の中は自己責任が強調される働きたくてもできない人、あがいていける人に対する理解はなかなかされない。醍醐では一人親世帯は千世帯以上にのぼる。親も頑張っているが、皆スーパー

マンではない。『こどもの貧困』も取り上げられるようになった。より多くの人と関われるこども時代を過ごしてほしい。こどものひろばでは「人間浴」と呼んでいるが、0歳から亡くなるまでひとつづきの人生を応援できる支援をしていきたい。最後に救うのは「地域福祉」ではないか」と村井さんは言います。

山科醍醐こどものひろばは踏み込むひとつの機会を作り、そしてどの世代もふらっと立ち寄って触れ合う「人間浴」を重ねていくことで、人の支えになるつながりを生み、地域の力を高める活動を展開されていると感じました。社協とNPOとが共働して人生を応援できるような、広い視点からの支援を一緒に作っていきたいと思います。

# 平成24年度 京都府社会福祉協議会事業計画(概要)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災や9月には紀伊半島を中心に襲った台風12号災害は甚大な被害をもたらした、あらためていのちの尊さと絆の大切さが問われました。こうした状況のもとで、今日ほど社会保障や社会福祉の充実が求められることはありません。

平成24年度は重点事業テーマ(5本柱)に取り組みます。すすめるにあたっては、事業の重点化とアウトカム(成果・結果)の重視、可視化に努め、評価の視点をもって計画的に事業を推進します。

また、第2次中期計画(平成21年~23年度)の総括と、平成24年度からの新たな第3次中期計画の実現にも取り組みます。

## 1 孤立を見逃さない地域づくり

- 市町村社協や民生委員等と連携して取り組んだ「高齢者見守り隊事業」による見守り活動などの発展、孤立しがちな人たちが抱える課題の解明、その解決に向けた活動や地域づくりに対する理解を広げます。
- 市町村社協の小地域福祉活動の強化と地域福祉活動計画づくりを支援します。

### 【主な事業】

「高齢者見守り活動強化事業」「集い、出会うための居場所づくり推進事業」「社協コミュニティワーカー実践研究会(①小地域福祉活動、②移動保障と買物支援)」等

## 2 生活困窮者等の自己実現と自立支援

生活に困窮する人たちの経済的な自立を支援するとともに、個々の住民が自分自身の可能性を最大限に発揮できるように支援します。

- 特に、生活福祉資金(総合支援資金含む)借受世帯への相談援助と債権管理の強化を京都府内市区町村社協や民生委員との連携・協働で推進します。

### 【主な事業】

「生活福祉福祉資金貸付事業」「臨時特例つなぎ資金貸付事業」「京都ジョブパーク生活相談コーナーにおける貸付相談事業」

## 3 府民の生活を支える権利擁護

認知症高齢者や知的障害、精神障害のある方で、判断能力に不安があり、福祉サービスの契約制度になじまない人への支援と、サービス利用の前提となる情報収集や情報不足についての課題について取り組みます。

- 成年後見制度の利用促進、「法人後見」についての検討、広域的な権利擁護のシステムづくりを支えます。
- サービス提供事業所内における苦情受付体制の確立を図るとともに、苦情解決事業や福祉サービス選択支援につながる第三者評価事業の周知に努めます。

### 【主な事業】

「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」「成年後見制度の利用促進」「法人後見への取組み検討会議の開催」「福祉サービス苦情解決事業」

## 4 福祉サービスの人材確保・定着・育成

福祉人材マッチング支援事業の充実、福祉職場就職フェアの開催、大学等と連携した福祉人材確保事業に取り組むとともに、求人が増加している北部地域の福祉人材の確保・定着を促進します。

- 「プラットフォーム(ジョブネット)、参画団体や本会事務局受託の経営協等関係団体との連携・協働を促進します。
- 職場定着にも効果が高い中堅職員研修、スーパーバイザー養成研修、OJTリーダー養成研修の拡充と、コーチング研修、研修担当リーダー養成研修等を新規に実施するなど将来を見据えた研修体系の再編整備に着手します。

### 【主な事業】

「福祉人材マッチング支援事業」「福祉人材バンク事業」「福祉職場就職フェアの開催」「大学等と連携した未来を担う福祉人材確保事業」等

## 5 自立した生活を支える地域包括ケアの推進

京都府が推進する「京都式地域包括ケアシステム」の実現と連携し、4つの領域の一つである〈見守り、生活支援サービス〉の充実強化を図ります。

- 各市町村の特性に合った見守り支援地域ネットワーク「絆ネット」を構築し、新たな見守り・生活支援の担い手強化を図るとともに府民が住み慣れた地域で暮らし続けることができるような仕組みづくりを支援します。

### 【主な事業】

「安心・安全 ぐらしのKIZUNAプロジェクト事業」



訓練生と事業所スタッフ

喫茶「りあん」

京田辺市社会福祉協議会

## 地域コミュニティカフェ オープンしました!

平成24年3月3日(土)に京都府精神障害者社会適応訓練事業協力事業所として、京田辺市社会福祉センター内に、喫茶「りあん」をオープンしました。

市民のみなさんの新たなコミュニティの場として提供し、情報交換・共有ができ、つながる場となるよう取り組んでいきます。

\*「りあん」・・・フランス語で「きずな」という意味です。

ご寄付

ありがとうございました



平成24年3月2日(金)に、財団法人大阪陸運協会(徳野辰夫専務理事)より70万円のご寄付をいただきました。京都府内の社会福祉事業のために活用させていただきます。ありがとうございました。

社会福祉施設  
総合損害補償

# しせつの損害補償



ホームページでも内容を紹介しています  
<http://www.fukushihoken.co.jp>

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために!

### プラン1 施設業務のための補償

(賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険)

#### ①基本補償

- 基本補償(A型)は、法人業務中、法律上の賠償責任が発生した場合、包括的に補償
- 見舞費用付補償(B型)は、賠償責任のない場合の見舞金が充実
- オプション1 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 施設の医療事故補償

#### ②個人情報漏えい対応補償

- 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含みます)に補償

#### ③施設の什器・備品損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償

### ◆スケールメリットを活かし、充実した補償内容です。

加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営している社会福祉施設です。

### プラン2 施設利用者のための補償

(普通傷害保険)

- ①入所型施設利用者の傷害事故補償
- ②通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

### プラン3 施設職員のための補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険)

- ①施設の労災上乗せ補償
- ②施設職員の傷害事故補償
- ③施設職員の感染症罹患事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記にお願いします。

団体  
契約者

社会福祉法人  
**全国社会福祉協議会**  
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン

取扱  
代理店

株式会社 **福祉保険サービス**  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

# 夢中!・熱中!ふくいびと

～だから続けたいこの仕事～

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で“熱い福祉”を“夢中”で実践している方々にスポットをあてて、元氣や楽しさ、やりがいを“生”の声でお届けします。

この仕事を始めたきっかけは、幼い頃から祖母と一緒に暮らしていたことと、両親共の祖父が産まれた時からおらず、高齢者介護にとても興味を持ち人の役に立つ仕事に就きたいと思ったことからです。仕事を始めた当時は育児と家事、仕事の両立しながら、働ながら勉強して介護福祉士資格取得を目指していました。

この仕事では、色々な方との出会いがあり人生の大先輩である方々と共に笑い、共に過ごすことで日々教えて頂くことがたくさんあり、私自身を大きく成長させてもらっています。また「ありがとう」の言葉かけや「楽しい」と言ってもらえる度にやりがい

## 人生の大先輩と共に笑い、過ごす幸せ

寛くろぎの家勸修 河邊 未来世さん

勤務を経て、平成19年4月から小規模多機能型居宅介護事業所へ異動となり、開所から現在に至っています。異動の年に介護支援専門員の資格も取得して、2年後には管理者にも昇格し、現在は兼務でおこなっています。地域密着型サービスでは、デイサービスでは経験したことのないことをたくさん経験し、素晴らしいさを実感しています。小規模多機能型施設は、登録された地域に住むご利用者がデイサービスやホームヘルプサービス、時にはショートステイと必要に応じてひとつの事業所でサービスを受けることができます。個々のニーズに添ったサービス提供ができ、その人らしさを尊重できる事業に出会えたことは私の仕事でのターニングポイントにもなりました。

を強く感じています。中でもイベントで仮装をおこなった際、普段はあまり関心のない方も喜んで仮装され、皆で



緒に涙が出るほど大笑いし、記念写真でも本当に素敵な笑顔が見られたことは忘れられません。また私はデイサービスでの

継続ができるように、チーム一丸となってサポートし続けたいと思っています。またご利用者と共に過ごす時間をこれからも大切にしていきたいと思っております。



### プロフィール

施設名…社会福祉法人 勤修福祉会  
寛くろぎの家勸修 (小規模多機能型施設)  
職種…管理者、介護支援専門員、介護職 (兼務)  
経験年数…13年  
好きな言葉…感謝  
夢中になっていること…バレーボール (体を動かすことが大好きで、地域のクラブチームに所属しチームプレーの素晴らしさを実感しています) 後は毎月1回ぐらいのペースで岩盤浴に出掛け、心身共にリフレッシュすることです。



### 京都の福祉

発行所 京都府社会福祉協議会  
発行人 宮本 隆司  
〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375  
TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310  
URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>

「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せ下さい。表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)

本会へのご意見等は、左記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

